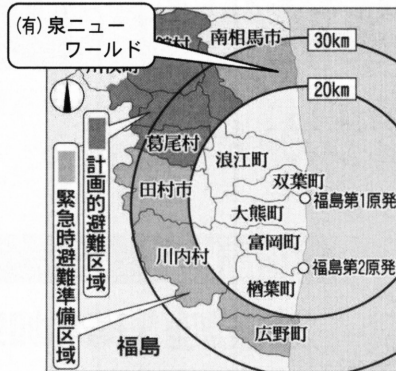


福島より震災復興レポート

頑張る「(有) 泉ニューワールド」

ジェイカムアグリ(株) 小名浜営業所 佐藤 康彰



例年であれば、生産者誰でもが喜ぶ実りの秋ですが、今回紹介する「(有) 泉ニューワールド」は福島県浜通りに位置する南相馬市原町区にあります。

会社は海岸線から約500mの場所にある為に、3月11日の東日本大震災では津波によって事務所、自宅ともに大きな被害を受けてしまいました。震災後、家族は約1ヵ月半親戚の家に避難し、事務所の復旧作業に入りました。現在、会社の事務所は車庫の1階を改造した仮設事務所、また生活は車庫の2階を中心とされており、まだまだ復旧作業は始まったばかりの状況です。

農業機械は格納庫にありましたが水没してしまい、一部の機械は整備すれば使用は可能とのことですがほとんどの機械は再生不能で膨大な費用がかかってしまいます。敷地内にあ

った牛舎もやられましたが、軒先まで達した海水の中で、繁殖牛子牛も含め11頭は、体が浮いていたと思われすが奇跡的に助かりました。牛は友人の畜舎で6月中旬まで約3ヶ月面倒をみてもらい自宅敷地内の畜舎に戻ったということです。

「(有) 泉ニューワールド」は平成16年2月に法人設立され、通常年であれば、受託を含め約45ヘクタール作付けしています。その内訳はブロックローテーションを取り入れ水稻、大豆、小麦を概ね3分の1ずつの他、飼料作物として燕麦を1.6ha作付けしていました。

今年の水稲については南相馬市が市内全域で作付けをしないことを決定したため、第一原発から20~30kmの緊急時避難準備区域にある「(有) 泉ニューワールド」でも作付けはしませんでした。

小麦の刈取りできたのは2ha、大豆の作付けできたのは14haと通常年の極一部にすぎませんでした。

大豆の肥料は「ジェイカムアグリ(株) 製造の「豆プロ一発(くみあいエムコートL40・S60H・S80H入り複合25)」を使っています。この肥料は平成21年に「(有) 泉ニューワールド」佐藤幸信社長の協力を得て開発した経過があります。従来使用していた肥料は窒素成分が低かったため、散布必要量が施肥・播種機の能力を上回り高チッソ肥料が求められました。この要望に応え、試験施肥を経て目標散布量をクリアし完成したのが「豆プロ一発」で、現在では2袋/10a使用しています。ローテーションでの大豆のあとの水稻作付けはチッソを控えるなど効率性、経済性も図っています。

今後の作付けについては、可能な耕地は一部あるものの、多くの耕地が津波で浸水したことや瓦礫除去が、まだ済んでいないこと、水路も被害を受けていることからまだ見通しがたっていないとのことでした。福島第一原発の爆発による放射性物質の風評に伴う農作物の販売価格低迷も心配されていましたが、地域の農業と立ち上げた会社を守るため、復興のために頑張っています。

「がんばろう 南相馬! がんばろう 福島!」



豆プロ一発の散布試験(2009/05 (有) 泉ニューワールド)

ジェイカムアグリの肥料で豊かな実り。

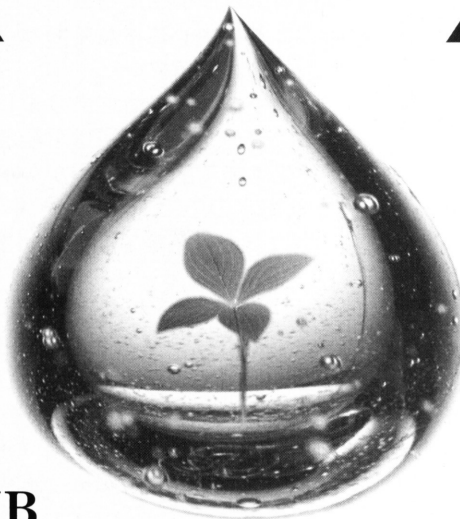
地球にやさしく、作物にちから強く。

コーティング肥料

LPコート® エムコート®
エコロング®
苗箱まかせ®

緩効性肥料

CDU®
ハイパーCDU®
IB® (アイビー®)
スーパーIB® グッドIB



化成肥料

燐硝安加里® 硝燐加安
硫加燐安 燐加安

培土

園芸用育苗培土
与作®
苗箱りん田®
水稻用育苗培土